

平成30年度 近畿大学原子炉等利用共同研究実施状況

本学原子炉は、原子力規制委員会が定めた「試験研究用原子炉の新規制基準」が平成25年12月18日に施行されたことに伴い、平成26年2月6日から原子炉の運転を停止しましたが、新規制基準の適合性審査をパスし、平成29年4月12日に38ヵ月ぶりに原子炉運転を再開しました。平成29年度の共同研究実績は利用日数：41日、原子炉運転時間：238.84hr、出力量：157.54W・hr、来所延人数（旅費支給者）：87人で、1年を通して原子炉を共同研究に利用することができました。

ところが、その翌年の平成30年度は、6月初旬に原子炉出力を微調整する役割の制御棒（調整棒）の駆動用モータに不具合が発見され、これ以降の原子炉運転はできませんでした。このような状況での平成30年度の共同研究実績は以下のとおりです。

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. 原子炉物理・原子炉応用に関する研究 | 13件 |
| 2. 原子炉化学・放射化学に関する研究 | 2件 |
| 3. 生物の放射線影響に関する研究 | 3件 |

の研究が実施され、利用日数：25日、原子炉運転時間：18.08hr、出力量：14.10W・hr、来所延人数（旅費支給者）：77人でした。

原子炉が運転できない状況で、利用者にはご不便とご迷惑をおかけしました。原子炉利用の代替が可能な研究課題については、原子炉起動用中性子源やX線発生装置による照射を利用させていただきました。

平成29年度の運転再開から、さらに利用を進めるはずの平成30年度において原子炉運転利用が長期間にわたってできませんでした。不具合のあった調整棒の駆動用モータは、「設工認」を経て更新し、使用前検査を受けて合格しました。そして、原子炉は、平成31年3月に施設定期検査を受検し、平成31年4月に合格証を得て、新しい年度において原子炉は問題なく運転できています。設置から56年が経過したという高経年化、そして、新規制基準の適合審査対応での3年余にわたる停止によって、駆動部分に不具合が生じたと考えられます。今後は、これまで以上に高経年化対策を実施して、長期間にわたる停止の事態が起こらないように努めて参ります。

今後とも、原子力の研究活性化のため、共同利用施設である近畿大学原子炉を有効に利用していただければ幸いに存じます。

これからも関係各位のご支援・ご協力をお願い申し上げます。